

性における差別と支配

ヴァルネラビリティをめぐって

日時：2017年 **1月 9日** (月・休) 14:00~18:00

場所：立命館大学 (衣笠キャンパス)

創思館401・402

◎参加無料・申し込み不要

◎会場の近くに駐車場はありません。
公共交通機関をご利用下さい。

〔講演〕

江原由美子さん

(首都大学東京／社会学)

〔報告〕

佐藤静さん

(國學院大学／フェミニスト哲学)

「性差別としてのヘイトメッセージと
ヴァルネラビリティ
——〈傷つき〉の経験をめぐって」

堀田義太郎さん

(東京理科大学／規範倫理学)

「差別の範例としての性差別と
その固有性
——性差別と性支配をめぐって」

司会：堀江有里

(世界人権問題研究センター／社会学)

「女性」に対する差別、抑圧、支配とは何か。それらはどのようなメカニズムで生じ、何によって維持されているのか。そこからの解放はいかにして可能か。——フェミニズムはこれらの問いによって駆動されてきました。そのため、反差別の実践と同時に、実践の基盤となる理論を探究してきました。

今回は『女性解放という思想』(1985)から『装置としての性支配』(1995)、『ジェンダー秩序』(2001)などで一貫して性差別・性支配に抗うためのフェミニズム理論を彫琢されてきた江原由美子さんをお迎えします。

実践・理論の両面から〈抵抗〉のツールとしてのフェミニズムの可能性について考察する機会にしたいと考えています。

※ 本イベントは『〈抵抗〉としてのフェミニズム』(生存学研究センター報告24、2016年)の成果発表の一環として企画されたものです。

主催：立命館大学生存学研究センター

企画：立命館大学生存学研究センター・研究プロジェクト

「フェミニズム研究会」